

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人
早瀬 繁一

あて名

〒 532-0003
大阪府大阪市淀川区宮原3丁目4番30号
ニッセイ新大阪ビル13階 早瀬特許事務所

様

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
(PCT規則43の2.1)

07.12.2004

出願人又は代理人 の書類記号 P33313-P0		今後の手続きについては、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/012904	国際出願日 (日.月.年) 31.08.2004	優先日 (日.月.年) 22.09.2003	
国際特許分類 (IPC) Int. Cl. H01L27/04, H01L21/82, H01L21/66			
出願人 (氏名又は名称) 松下電器産業株式会社			

1. この見解書は次の内容を含む。

- 第I欄 見解の基礎
- 第II欄 優先権
- 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- 第IV欄 発明の單一性の欠如
- 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- 第VI欄 ある種の引用文献
- 第VII欄 国際出願の不備
- 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 18.11.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 渕 真悟
	4L 3125
電話番号 03-3581-1101 内線 3462	

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ 配列表

配列表に関連するテーブル

b. フォーマット 書面

コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 出願時の国際出願に含まれる

この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 捷足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-4	有
	請求の範囲 _____	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 1-4	有
	請求の範囲 _____	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-4	有
	請求の範囲 _____	無

2. 文献及び説明

文献1 : JP 2003-124274 A (松下電器産業株式会社)
 2003. 04. 25, 全文, 全図 &
 US 2003/0032263 A1, 全文, 全図 &
 CN 1405867 A & KR 3014637 A &
 TW 558772 B
 文献2 : JP 7-37943 A (東京エレクトロン株式会社)
 1995. 02. 07, 段落【0004】
 文献3 : JP 2002-22809 A (セイコーホームズ株式会社)
 2002. 01. 23, 段落【0023】 - 【0026】 , 第2図

請求の範囲1に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1と文献2とにより進歩性を有しない。文献1の段落【0041】 - 【0045】及び第1図(b)には、電極パッド18が配置される以外の領域にプローブパッド19及び電極パッド18とプローブパッド19間の配線(プローブパッド19と前記配線とで請求の範囲1の配線に対応)が形成されることが記載されている。また、文献2の段落【0004】には、プローブ針に代えてバンプを用いることが記載されているため、文献1のプローブパッド19にバンプを接触させることは当業者にとって容易である。

請求の範囲2に係る発明は、文献1-2と国際調査報告で引用された文献3とにより進歩性を有しない。文献3の段落【0023】 - 【0026】には、プローブ試験を行う際に、2つのパッドを1つのプローブ針で検査する技術が記載されており、文献1に文献3に記載された技術を用いることは、当業者にとって容易である。

請求の範囲3に係る発明は、文献1-3により進歩性を有しない。文献1の第1図(b)を参照すれば、電極パッド18とプローブパッド19間の配線が屈折部を有することは自明である。

第VII欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲2は、明細書によって十分に裏付けされていない。請求の範囲2に関しては、具体的にどのようなパッド同士をバンプによって接触させるのか明細書中に記載されておらず、単に隣接するパッド同士をバンプによって接触させるのか不明である。

補充欄

いづれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2 欄の続き

請求の範囲 4 に係る発明は、文献 1-3 により進歩性を有しない。文献 1 の段落【048】には、プローブパッド 19 が形成された切断領域 17b が切断により除去されることが記載されている。